

Annual Report 2021

Center for Professional Development in Nursing
Kyoto Tachibana University

京都橘大学

看護教育研修センター

年報 2021



京都橘大学

INDEX

刊行にあたって 3

沿革 4

組織 10

認定看護師教育課程 11

キャリア開発事業 15

刊行にあたって

京都橘大学看護教育研修センター所長

奈良間美保

京都橘大学看護教育研修センターは、看護職者の専門性を高め、その看護実践力を向上させるための教育研修を行うとともに、地域に貢献する看護職者を育成することを目的に、2007年に設立され、時代の要請に応えるべく事業の発展に努めてきました。

2020年、新型コロナウイルス感染症（以下、感染症とします）の世界規模での流行が起これ、看護系大学における教育活動には大きな変化がありました。2020年10月1日時点の「新型コロナウイルス感染症に関連する保健師助産師看護師養成学校における臨地実習等の実施状況調査」（文部科学省）¹⁾によれば、大学の看護師等養成課程のうち、全学年の臨地実習のすべてまたは一部の実習科目で代替措置を行った課程は97.2%に及び、その対応は、学内実習・演習やオンライン等による様々な工夫がみられました。2021年においても臨地実習への影響は続き、図らずも将来の看護を担う人材の育成をより柔軟に多様性をもって取り組むことが求められる時代となりました。本センターがこれまで取り組んできた継続教育は、まさに現代の社会のニーズに応える活動であることに気づかされます。

本センターの活動は、【看護キャリア開発事業】と【認定看護師教育課程】から構成されています。【看護キャリア開発事業】は、2020年度には、感染拡大を受けて一旦活動を休止しましたが、2021年度は、オンライン研修を取り入れながら事業の再開を果たしました。①たちばなSIMは、看護学部卒業生とともに勤務する看護職を対象に、シミュレーションを取り入れて知識や技術を学びなおす継続教育であり、2021年に清優館1階に整備されたSIMコモンズ（シミュレーションルーム）を活用して行いました。従来の看護学実習を必ずしも十分に経験できないままに卒業した看護職にとっても、有意義な研修になり得ると考えています。また、②看護倫理研修は、医療現場の中で生じる倫理的課題に焦点をあて、看護師自身の心の揺れなどに向き合い、他者と共有し合う中で医療者の在り方を考える機会となっています。刻々と変化する現在の医療現場において、多くの倫理的問題が生じていることを考えますと、本研修の重要性を改めて感じます。③学修成果レポート作成スタート支援講座は、健康科学部心理学科通信教育課程の科目履修生の看護学コースを受講した方への選択的な研修プログラムとして位置づけられています。看護学コースを履修された方への調査結果より、履修生の学位申請及び学位取得において、本講座が一定の役割を果たしていることがうかがえます。詳しくは、後述の報告をご覧ください。

【認定看護師教育課程】は、本センターが開設された2007年に設置され、これまでに皮膚・排泄ケア分野において389名の修了生を輩出しました。この認定看護師教育課程（A課程）は終了し、2022年度からは、特定行為研修を組み込んだ教育課程（B課程）として新たなスタートを切ります。今年度は、その準備期間として、カリキュラムの検討や実習協力施設の調整、B課程としての申請等に取り組みしました。これまでの成果を基盤としながら、より質の高い認定看護師の育成に努めて参ります。

本センターの一年間の活動の詳細は、本年報にてご報告いたします。今後は、本センターの発展的改編も視野に入れながら、発足当時の理念である卒業生の支援と地域貢献を目指した取り組みを継続することで、看護職の健全なキャリア形成の一助となるように努めたいと考えます。

1) 文部科学省（2021）. 新型コロナウイルス感染症下における看護系大学の臨地実習の在り方に関する有識者会議報告書 看護系大学における臨地実習の教育の質の維持・向上について.

2022年3月3日アクセス、https://www.mext.go.jp/content/20210608-mxt_igaku-000015851_0.pdf

沿革

1) 認定看護師教育課程 教員会

開催時期	内 容
2007年度 4月 17日 11月 27日	入試・入学状況と年間計画 修了判定会議と次年度入学までの予定確認および承認
2008年度 4月 23日 11月 26日	入試結果、入学状況、年間教育実施計画および次年度予定について内容の検討と承認 修了判定会議と次年度予定確認および承認
2009年度 4月 22日 12月 15日	2008年認定部審査結果、2009年度入試結果、入学状況と年間教育実施計画の検討 および承認 2009年度生の修了判定会議、2010年度入試結果の確認および承認
2010年度 4月 21日 12月 7日	2010年度入試結果、入学状況と年間教育実施計画の検討および承認 再修了試験不合格者に対する対応について審議 修了生を含めた皮膚・排泄ケア認定看護師を対象としてフォローアップセミナー開催について検討 および承認 2010年度生の修了判定会議、2011年度入試結果の確認と承認
2011年度 4月 27日 12月 14日	2010年度修了報告および2011年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認 2011年度生の修了判定会議、2012年度入試結果の確認と承認 休学者が復学する場合の条件等について検討と承認
2012年度 4月 18日 12月 18日 2月 14日 (臨時)	2011年度修了報告および2012年度入試結果について確認と承認 フォローアップセミナーを含む年間教育実施計画および皮膚・排泄ケア分野カリキュラム改訂につ いて検討および承認 2012年度生の修了判定会議、2013年度入試結果の確認と承認 開講期間延長について審議 修業年限・課程の終始期・入学資格に関する規定改訂内容について審議および承認 情報管理誓約書、教員会規定改訂について審議および承認、長期欠席規定については 継続審議となる
2013年度 4月 25日 12月 19日	2012年度修了報告および2013年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認 2014年度5月開講について審議および承認 2013年度生の修了判定会議 実習不合格による再履修希望者について審議および承認 授業時間変更について審議および承認 授業時間に関する規定改訂内容について審議および承認 2014年度入試結果の確認と承認
2014年度 4月 23日	2013年度修了報告および2014年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認 センター教員の社会貢献活動報告および2014年度の計画の報告 第4回フォローアップセミナー開催について検討および承認

開催時期	内 容
2014年度 12月 9日	2014年度生の修了判定会議、2015年度入試結果の確認と承認 2015年度教育期間の確認と承認
2015年度 4月 22日	2014年度修了報告および2015年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認
12月 10日	センター教員の社会貢献活動報告および2015年度の計画の報告 2015年度生の修了判定会議、2016年度入試結果の確認と承認 2016年度教育期間の確認と承認
2016年度 4月 20日	2015年度修了報告および2016年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認 皮膚・排泄ケア分野カリキュラム改訂について確認と承認
12月 13日	センター教員の社会貢献活動報告および2016年度の計画の報告 2016年度生の修了判定会議、2017年度入試結果の確認と承認 2017年度教育期間の確認と承認
2017年度 4月 19日	2016年度修了報告および2017年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認 皮膚・排泄ケア分野カリキュラム改訂について確認と承認
12月 15日	センター教員の社会貢献活動報告および2017年度の計画の報告 2017年度生の修了判定会議、2018年度入試結果の確認と承認 2018年度教育期間の確認と承認
2018年度 4月 18日	2017年度修了報告および2018年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認
12月 13日	センター教員の社会貢献活動報告および2018年度の計画の報告 2018年度生の修了判定会議、2019年度入試結果の確認と承認 2019年度教育期間の確認と承認
2019年度 4月 17日	2018年度修了報告および2019年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認
12月 12日	センター教員の社会貢献活動報告および2019年度の計画の報告 2019年度生の修了判定会議、2020年度教育期間の確認と承認
2020年度 4月 15日	2019年度修了報告 年間教育実施計画の検討および承認
2月 10日	センター教員の社会貢献活動報告および2020年度の計画の報告 2020年度生の修了判定会議、2021年度休講に関する確認と承認
2021年度 4月 15日	2020年度修了報告 復学・再履修者の年間教育実施計画の検討および承認 センター教員の社会貢献活動報告および2021年度の計画の報告 第一回特定行為研修管理委員会

開催時期		内 容
2021年度	10月 8日	特定行為研修を組み込んだ教育課程（B課程）に関する方針および教育計画について 第二回特定行為研修管理委員会
	2月 10日	復学・再履修者の修了判定会議、2022年度教育期間の確認と承認 第三回特定行為研修管理委員会

2) 看護キャリア開発委員会

2012年度

4月	16日	第1回看護キャリア開発委員会
5月	7日	第2回看護キャリア開発委員会
6月	7日	第3回看護キャリア開発委員会
7月	3日	第4回看護キャリア開発委員会
7月	31日	第5回看護キャリア開発委員会
9月	19日	第6回看護キャリア開発委員会
10月	16日	第7回看護キャリア開発委員会
11月	20日	第8回看護キャリア開発委員会
2013年	1月	16日 第9回看護キャリア開発委員会
	2月	19日 第10回看護キャリア開発委員会
	3月	19日 第11回看護キャリア開発委員会

2013年度

4月	17日	第1回看護キャリア開発委員会
5月	21日	第2回看護キャリア開発委員会
6月	17日	第3回看護キャリア開発委員会
7月	23日	第4回看護キャリア開発委員会
9月	18日	第5回看護キャリア開発委員会
10月	23日	第6回看護キャリア開発委員会
11月	27日	第7回看護キャリア開発委員会
2014年	1月	22日 第8回看護キャリア開発委員会

2014年度

4月	23日	第1回看護キャリア開発委員会
5月	29日	第2回看護キャリア開発委員会
7月	23日	第3回看護キャリア開発委員会
9月	17日	第4回看護キャリア開発委員会
11月	4日	第5回看護キャリア開発委員会
2015年	1月	6日 第6回看護キャリア開発委員会
	3月	5日 第7回看護キャリア開発委員会

2015年度

4月	15日	第1回看護キャリア開発委員会
5月	27日	第2回看護キャリア開発委員会
7月	6日	第3回看護キャリア開発委員会
9月	10日	第4回看護キャリア開発委員会
10月	14日	第5回看護キャリア開発委員会
11月	27日	第6回看護キャリア開発委員会
2016年	1月	6日 第7回看護キャリア開発委員会
	2月	10日 第8回看護キャリア開発委員会

2016年度

4月	5日	第1回看護キャリア開発委員会
5月	23日	第2回看護キャリア開発委員会
6月	20日	第3回看護キャリア開発委員会
8月	3日	第4回看護キャリア開発委員会
9月	21日	第5回看護キャリア開発委員会
10月	24日	第6回看護キャリア開発委員会
12月	2日	第7回看護キャリア開発委員会
2017年	2月 15日	第8回看護キャリア開発委員会

2017年度

4月	18日	第1回看護キャリア開発委員会
5月	23日	第2回看護キャリア開発委員会
7月	12日	第3回看護キャリア開発委員会
9月	26日	第4回看護キャリア開発委員会
10月	30日	第5回看護キャリア開発委員会
12月	18日	第6回看護キャリア開発委員会
2018年	2月 16日	第7回看護キャリア開発委員会

2018年度

4月	17日	第1回看護キャリア開発委員会
7月	11日	第2回看護キャリア開発委員会
9月	19日	第3回看護キャリア開発委員会
10月	16日	第4回看護キャリア開発委員会
11月	21日	第5回看護キャリア開発委員会
2019年	2月 18日	第6回看護キャリア開発委員会

2019年度

4月	23日	第1回看護キャリア開発委員会
5月	27日	第2回看護キャリア開発委員会
6月	27日	第3回看護キャリア開発委員会
9月	6日	第4回看護キャリア開発委員会
10月	4日	第5回看護キャリア開発委員会
12月	6日	第6回看護キャリア開発委員会
2020年	2月 7日	第7回看護キャリア開発委員会

2020年度

	4月		第1回看護キャリア開発委員会
	5月		第2回看護キャリア開発委員会
	7月	22日	第3回看護キャリア開発委員会
	11月	2日	第4回看護キャリア開発委員会
2021年	1月	18日	第5回看護キャリア開発委員会
	2月	15日	第6回看護キャリア開発委員会

2021年度

	4月	26日	第1回看護キャリア開発委員会
	5月	25日	第2回看護キャリア開発委員会
	10月	22日	第3回看護キャリア開発委員会
2022年	1月	14日	第4回看護キャリア開発委員会

組織

2021年度

認定看護師教育課程 教員会（当該教育機関内委員）

奈良間 美 保	京都橘大学看護教育研修センター センター長
多 田 千和子	京都橘大学看護教育研修センター 准教授（皮膚・排泄ケア認定看護師）
中 務 直 美	京都橘大学看護教育研修センター 講師（皮膚・排泄ケア認定看護師）
西 本 泰 久	京都橘大学健康科学部救急救命学科 教授
上 澤 悦 子	京都橘大学看護学部看護学科 教授
餅 田 敬 司	京都橘大学看護学部看護学科 准教授
マルティネス 真喜子	京都橘大学看護学部看護学科 准教授
川 村 晃 右	京都橘大学看護学部看護学科 専任講師

看護キャリア開発委員会

奈良間 美 保	京都橘大学看護教育研修センター 所長
梶 谷 佳 子	京都橘大学看護学部長
松 本 賢 哉	京都橘大学看護学部看護学科 教授
竹 下 夏 美	京都橘大学看護学部看護学科 准教授
中 橋 苗 代	京都橘大学看護学部看護学科 准教授
清 水 彩	京都橘大学看護学部看護学科 准教授

認定看護師教育課程

認定看護師教育課程

1. 認定看護師教育課程〈皮膚・排泄ケア分野〉の研修について

2021年度の認定看護師教育課程皮膚・排泄ケア分野は、2022年度から開講する「特定行為研修を組み込んだ教育課程」の準備（日本看護協会・厚生労働省への申請、特定行為研修実習施設依頼等）のため休校した。

また、2020年度の研修生14期生のうち、臨地実習が再履修となった1名と、1年間休学していた1名が復学し、11月1日から臨地実習を開始した。180時間の臨地実習では、2名とも自己の課題をクリアし、合格の評価を得ることができた。実習終了後は、学内演習において実習の振り返りとケースレポートの作成・発表を行い、2月3日に修了試験を行った。学内演習、修了試験ともに合格し2月18日に修了式を挙行了した。

これにより修了生は通算389名となった。

2. 認定看護師認定審査に対するフォローアップ研修

2020年2月に修了した14期生28名に対し、10月20日に行われる日本看護協会の認定審査試験に向けてフォローアップ研修を3回行った（6月、8月、9月）。研修の内容は、認定審査を仮定し修了生が相互に問題を作成し、解答と解説を行う。これにより審査に向けて自己に足りない知識を再確認し、モチベーションを保つことを目的としている。

今年度はCOVID-19の影響により、集合による研修はできなかったが、オンラインにより、例年と変わらない内容の研修を行うことができた。

2021年度の認定審査は受験した28名全員が合格した。

3. 教員の専門領域の活動について

【多田 千和子】

1) 京都橘大学看護学部・看護学研究科に対し、下記の講義を行った

①看護学部3年生

生涯健やか看護学 2コマ・生涯健やか看護学演習 2コマ

「排泄することに問題をかかえ生活している人を支える在宅看護（ストーマケア）」

「清潔と皮膚を保護することに問題を抱え生活している人を支える在宅看護（スキンケア・スキン-ケア）」

②看護学部1年生

フィジカルアセスメントⅠ「体や臓器を守る仕組み：皮膚と膜」1コマ

フィジカルアセスメントⅡ「食物を摂取して、消化・吸収する仕組み（1）～（4）」4コマ

③看護学研究科

クリティカルケア看護学演習Ⅱ

「クリティカルな状況にある患者の病態や治療に伴う苦痛とその緩和」

創傷・皮膚統合性障害（2コマ）・広範囲熱傷（2コマ）

2) 以下の関連学会に参加し、最近の知見や情報収集を行い研修教育に活用した。

①第30回日本創傷・オストミー・失禁管理学会 学術集会（オンライン）

②第22回日本褥瘡学会学術集会（オンライン）
評議委員会（オンライン）に出席

③第2回日本フットケア・足病医学会年次学術集会（オンライン）

④第39回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学術集会（オンライン）

【中務 直美】

1) 明治国際医療大学看護学部に対し、下記の講義を行った。

①看護学部4回生

「スキンケア」(皮膚の解剖、スキンケア、褥瘡ケア、フットケア)7コマ

2) 以下の関連学術集会に参加し、最近の知見や情報収集を行い研修教育に活用した。

①第62回関西STOMA研究会(オンライン)

②第30回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会(オンライン)

③第22回日本褥瘡学会学術集会(オンライン)

④第3回日本フットケア・足病医学会 関西地方会(オンライン)

⑤第2回日本フットケア・足病医学会年次学術集会(オンライン)

⑥第39回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学術集会(オンライン)

⑦第15回奈良県在宅褥瘡セミナー(オンライン)

⑧2021年度近畿地区床ずれセミナー(オンライン)

⑨第18回日本褥瘡学会 近畿地方会(オンライン)

看護教育研修センター 准教授
皮膚・排泄ケア認定看護師 多田 千和子

看護キャリア開発事業

■学修成果レポート作成スタート支援講座 16

■2021年度 たちばなSIM. 22

■2021年度 看護倫理研修 31

看護キャリア開発事業

■学修成果レポート作成スタート支援講座

『学修成果レポート作成スタート支援講座』は、本学健康科学部心理学科通信教育課程看護学コースの科目等履修で単位取得した学生が、大学評価・学位授与機構に学位申請のために提出する学修成果レポート作成のスタートを支援するための研修として、2013年度から開始された。2013年度は個人指導としたが、受講者が主体的にレポート作成に取り組めるよう、2014年度からグループ演習を中心に展開している(表2参照)。但し、2020年度はCOVID-19により中止、2021年度は初めての試みとしてオンラインで実施した。

1. プログラムの概要

本講座のプログラムは、レポート作成のプロセスに添い、STEP1《テーマを絞る》、《テーマに関連した文献検索》、STEP2《レポートのアウトラ

インの作成》の2回、グループで学習する。開講時期は5・6月であり、STEP1とSTEP2の間は1ヵ月あけ、受講者が課題意識を持って取り組めるようスケジュールを設定している。講師は本学看護学部専任教員1名と通信教育課程を担当する非常勤講師2名が担当した(表1参照)。

2. 受講者数

受講者数に関しては、表2参照のこと。

3. 受講の目的、理解状況

プログラム受講時のアンケートをもとに、参加動機、講座で理解できたこと、理解できなかったこと、受講した感想等を下記にまとめた。アンケートの回答数はA日程のSTEP1が6、STEP2が2、B日程のSTEP1が6、STEP2が7だった。

表1 プログラムの概要

学位授与申請に関するガイダンス		
10:00～10:30	学位授与申請に関するガイダンス	通信教育課
Step1：《テーマを絞る》		
10:45～12:15	論理的思考・レポートの書き方について（講義）	講師：竹下
13:00～16:15 （休憩15分含）	レポート作成にむけたグループ学習 ※教員がファシリテーターを務めながら指導を実施。	講師：竹下・鈴木・穴吹
Step2：《レポートのアウトラインの作成》		
13:00～16:15 （休憩15分含）	レポート作成にむけたグループ学習 ※教員がファシリテーターを務めながら指導を実施。	講師：竹下・鈴木・穴吹

表2 受講者数とグループ数

	日程	時間	受講者	グループ数
STEP1	A 日程：5月11日（火）	10：00～16：15	14名	3
	B 日程：5月28日（金）	10：00～16：15	14名	3
STEP2	A 日程：6月 8日（火）	13：00～16：15	11名	3
	B 日程：6月25日（金）	13：00～16：15	11名	3

1) STEP1 テーマをしぼる

(1)参加動機・目的

- ・学習成果レポートの書き方を知りたかった
- ・論文の作成方法などを学びたいと思ったから
- ・学位授与申請を行うにあたり、レポート記入に関して不安があったため
- ・レポート作成に向けどのように取り組み始めるといいかがわからず、きっかけを教わりたかったから。
- ・論文の作成が初めてであり、方法が不明であったため
- ・学習成果レポートの書き方のコツを知りたかったため
- ・ガイダンスや必要書類等知りたかった。また教員の指導やアドバイスが欲しかった
- ・レポートを作成するのが得意ではないこととグループワークを通してレポート作成のモチベーションを上げるため
- ・レポート作成に抵抗があったため、講座を受講することで前向きに取り組めるかと思い、申し込みをした。
- ・学位申請レポート作成のため
 - ・自分だけでは学習成果レポート作成の自信がなく根拠となるものを学びたかった。

(2)理解できたこと

- ・レポートの書き方
- ・論文作成方法 アウトライン 情報リテラシーや論文作成のルールなど
- ・記入するにあたり必要事項、レポート内容の選定の方法
- ・グループワークで他の受講生の話を聴いたり、質問を受けたりすることで自分がわかっていないことなどを少し実感したと思う。
- ・テーマの選択の方法

- ・論文の検索方法と論理的な文章
- ・書き方の復習ができた。
- ・レポート作成方法・文献検索方法
- ・レポート作成の流れを理解した。
- ・申請の区分
- ・自分の中で考えていたことの整理・レポートの中のキーワードをもう一度考え直さなければならぬこと

(3)理解しにくかったこと。

- ・論文のさまざまな書き方、文献検討、研究のようなやりかたの書式のイメージがつきにくい。
- ・理解しにくかったわけではないが、他の方は結構骨子が固まっていた方ばかりで、自分の文献検索がまだ不十分であったことに気づかされた。

(4)オンライン受講に関して良かった点

- ・移動の時間・費用がかからない、時間を効率的に使うことができる、感染リスクをなくすることができるため
- ・移動の時間・費用がかからない、時間を効率的に使うことができる、所属施設から集合研修を禁止されているため
- ・移動の時間・費用がかからない、感染リスクをなくすることができるため、講師や他の受講生に質問等しやすい

(5)オンラインでの受講に関して、気になった点・悪かった点

- ・「オンライン講座」に抵抗があった※PC操作への不安等
- ・対面で受講したかった、自宅等で受講環境を整えることができなかった、講師や他の受講生に質問等しにくい
- ・「オンライン講座」に抵抗があった※PC操作

への不安等, 集中できなかった, 文献検索に苦勞している、大学の図書館での文献検索なども行いたかった。

- ・たまに画像、音声止まる点
- ・「オンライン講座」に抵抗があった※PC操作への不安等, 自宅等で受講環境を整えることができなかった
- ・自分自身のPC操作知識不足で接続が難しかった。接続方法の詳細について事前に教えてほしかった。

(6)講座およびガイダンス受講への感想

- ・講義資料が事前に配布されていたら良かった。
←A日程受講者には後日配布、B日程では事前に配布。
- ・PC上での共有がなかなか難しく午後からのグループワークの時間が少なくなってしまう、もう少し話し合いなどをしたかった。また、オンライン授業のためグループメンバーとコミュニケーションがとりづらいと思った。
- ・はじめてのオンラインであり、緊張した面がほとんどであった。実は質問したいけれど緊張で、話辛さも感じた。しかし、時間や感染リスクも心配することなく実施できたことは有意義に講義であったと感じた。
- ・動作やログインなどで度々待ち時間が発生し、集中が途切れることがあった。オンラインでの講座に不安はあったが、講師の方やほかの生徒の方ともやりとりできたのはよかった。
- ・他の受講者の内容が知れて、現場の声が聴けてうれしかった。
- ・働く場所や立場の違いはあっても、学士を取得しようとする同志とグループ学習をすることで、それぞれがそれぞれの課題に向き合っているとわかり、レポート作成だけではなく、

日々の業務をしていく上での自分のモチベーションアップに繋がったように思う。

- ・午後のワークで、他のメンバーから助言等が得られて、頭の中が少し整理できたので、良かった。
- ・学位授与のことが受講できなかった。多分基礎資格Ⅱになるので高校の卒業証明のことで聞きたいことがあった。申請のことで不明な点について質問したい。

2) STEP2 レポートのアウトラインの作成

(1)理解できたこと

- ・アウトラインの書き方、構成
- ・アウトライン作成
- ・本論中を書く内容と結論中を書く内容の差異
- ・問いから考察までアウトラインがまとまった気がする。
- ・アウトライン作成ができレポート作成がわかりやすくなった
- ・レポートの作成のアウトライン、文献の整理の仕方
- ・アウトラインから文書作成への方向性がたった。
- ・「問い」を明確にすることの大切さ
- ・アウトラインの重要性

(2)理解しにくかったこと。

- ・だいたい理解できた
- ・内容はわかりやすかった

(3)感想

- ・個々に応じた助言があり、受講者で意見交換もできて良かった
- ・先生と対話することもよかったし、先生の話はわかりやすかった。オンラインのため時差やサーバーダウンの問題があり、聞けない部

分が多くあった。それに関してはどうしようもないという事務の回答であったが、どうしようもないといわれて も他の人は聞いているのに自分だけは聞いていないというのは大変困っていたが、最後に先生に聞けて良かった。

- ・定まりきっていなかった方向性と、本論と結論のどちらに書けばいいか迷っていた内容について明確になったので、とても 助かった。
- ・先生をはじめ、グループ内で楽しくレポート作成について一緒に考えることができ励みになった。
- ・自分のレポート作成が進んでおらず、時間をとってもらったがアウトラインもきれいにまとめていただき自分が言いたかったことを整理していただけた。文字起こしは苦手なのでかなり進んだ感じを受けた。またほかの方の考えもうかがうことができて刺激になった。またこのような機会があればぜひ参加したいと思う。
- ・アウトラインで迷走してしまっていたところを先生や参加メンバーの方にアドバイスしていただき、方向性の目途がたてたので参加してよかった。
- ・オンラインでも、個別指導をしてくださり、頭の中が整理できた。受講させていただき、良かった。
- ・ステップ1の講義、そして、指導により、論文作成の過程を迷わず進むことができていると感じる。また、指導により、自分の考えを整理でき、自信を持つことができた。自分が学んだことを言葉にし、伝えられるように頑張っていきたい。

4. 通信教育課程看護学コース修了生へのアンケートの結果について

生涯教育・通信教育課担当者より通信教育課程看護学コース修了生へのアンケート結果が報告された。内容は以下である。

1) アンケートの実施概要について

- (1)アンケート対象者：2016～2020修了者（未回答者）全168名
- (2)実施方法：Googleフォーム（Webアンケート）
- (3)実施期間：2021年10月29日～11月26日まで
- (4)実施内容：回答選択式および記述式でのアンケート調査

- ・回答状況：168名中68名(40.4%)、うち、本学の「学修成果レポート作成サポート講座」参加者：14名（回答者の20.6%）※2021年度：6名 2020年度：5名 2019年度：2名 2018年度：1名

2) 質問項目

- (1)独立行政法人大学改革支援・学位授与機構への学位申請状況について
「申請した」・「申請していない」・「これから申請する」
- (2)学位取得状況について
「取得済み」・「取得予定」・「取得していない」
- (3)申請していない理由（自由記述）
- (4)学修成果レポートの作成期間
「1ヶ月」・「3ヶ月」・「半年」
- (5)学修成果レポートにおいて、苦労したこと（自由記述）
- (6)学位申請書類の作成において、苦労したこと（自由記述）
- (7)本学在学中にしておけばよかったと思うこと（自由記述）

3) アンケート結果

2) の質問項目についてまとめた結果が以下である。

- (1) 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構への学位申請状況について (図1参照)
「申請した」50%、「申請していない」32.4%、「これから申請する」17.6%
- (2) 学位取得状況について (図2参照)

「取得済み」27.9%、「取得予定」23.5%、「取得していない」48.5%

サポート講座の参加者状況は、図3参照。サポート講座参加者と非参加者の比較によると申請率・取得率ともに、講座参加者のほうが若干高い

- (3) 申請していない理由 (自由記述)、(4) 学修成果レポートの作成期間 (図4参照)、(5) 学修成果レ

図1 学位授与機構への学位申請状況

1. 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構への学位申請状況について
68 件の回答

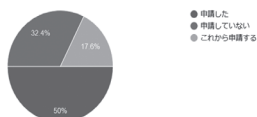


図2 学位取得状況について

2. 学位取得状況について
68 件の回答

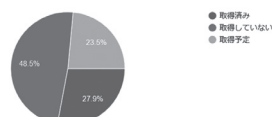
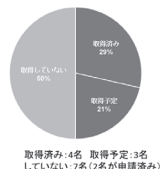
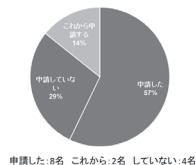


図3 サポート講座参加者の状況

学位申請状況について

学位取得状況について



サポート講座参加者と非参加者の比較

	申請率 (「申請した」回答率)	取得率 (「取得した」回答率)
参加者	57.1% (8/14)	28.6% (4/14)
非参加者	48.1% (26/54)	24.1% (15/54)

申請率・取得率ともに、講座参加者のほうが高い

「学位申請しない」理由

- ・レポートの作成が進まない、どんな内容にすればよいかわからない→5名
- ・仕事や育児が忙しく、レポートの作成ができない→11名
- ・コロナの影響(図書館が使えない、学修成果レポートを対面で受講したい、試験会場が大阪のため遠い)→4名
- ・その他(現在作成中、手続きがわからない、海外留学をしていた、学歴社会の必要性を感じた?)→4名

【サポート講座参加者の理由】

- ・コロナで図書館などが使用できないため
- ・取り掛かっていたが、資料集めくらくらまでで仕事優先となりました。
- ・妊娠しており、休職をしていた

学修成果レポートの作成で苦労したこと

- ・テーマを決めること、参考・引用文献の使い方、文章量 ←圧倒的多数
- ・仕事や育児との両立
- ・アカデミックライティングの経験がなかったこと
- ・添削してもらえる人がいなかったこと
- ・要件を充足したレポートになっているかどうか不安だったこと

ポートにおいて苦労したこと（圧倒的にテーマの決定に関すること）、(6)学位申請書類の作成において苦労したこと（圧倒的多数が修得単位の分類がわからなかったこと）、(7)本学在学中にしておけばよかったと思うことに関してはスライド参照のこと。

学修成果レポートの作成で苦労したこと テーマについて(抜粋)

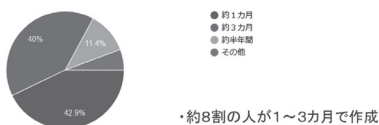
「レポートの題材(テーマ)選定、引用文献等の検索」
「テーマ設定、組み立て方、参考文献の取り入れ方」
「規定の文章量でレポートを構成すること」
「テーマについてどのように焦点を絞るか」
「現場を離れていた中で、テーマ設定に苦労した」
「自身の現在の仕事内容と学びの内容を関連性を持たせ、テーマに沿った内容にまとめること。」

5. おわりに

看護キャリア開発の事業における通信教育課程看護学コース履修者のための学修成果レポート作成スタート支援講座は今回で終了である。受講者のアンケート結果からおおむね満足しているという結果が得られた。しかし、実際にレポートを提出し、最終申請をしている受講者が少ないのが現状である。今後は引き続き看護学部と生涯教育・通信教育課のコラボレーションで「学修成果レポート作成支援講座」は継続予定である。本講座の講義をオンデマンド配信、これまで前期日程のみだったものに後期日程も追加して、合計4日程行う。また、レポート作成内容に関して、別途回数を制限して対応を行う予定で、次の講座に向けて内容を検討中である。

看護学部 准教授 竹下夏美

図4 学修成果レポートの作成期間



学位申請書類の作成で苦労したこと

- ・修得単位の分類がわからなかった ← 圧倒的多数
- ・学校に証明書を寄せること(高校の証明書まで必要とは思わなかった)
- ・入力内容が多すぎたこと

本学在学中にしておけばよかったと思ったこと

- ・テーマを決めておくこと
→ 昨年度もこの意見が一番多かった
- ・図書館を利用すること
- ・もっと学習をして知識を深めておくこと

まとめ・今後について

- 今回のデータを根拠にしつつ、「サポート講座」の有効性を引き続き学生にアピールしていきたい。
- 学修成果レポートのテーマについては早めに考えておくよう、在学中から学生に対して促す。
- 今後のサポート講座についても、テーマを定めた上での参加を促すとともに、演習時間を長くするなどの改善を検討していきたい。
改善例) 資料の事前配布・内容を収録して事前配信、など

■2021年度 たちばなSIM.

京都橘大学看護学部では、2012年度から卒業生に対するキャリア開発事業として、シミュレーション学習を中心とした研修プログラム「たちばなSIM」を開催している。残念ながら、2020年度が新型コロナウイルス感染拡大にて中止を余儀なくされたが、今年度、再開することができた。

京都橘大学看護教育研修センターでは、大学卒業後も看護学を学び続け、保健医療の現場で活躍する卒業生を応援する事業を行っている。リラックスし、安心できる学びの空間で、働きながら身に付けた知識・技術を改めて学びほぐし、情報交換を行う場を提供するために、シミュレーションを取り入れながら楽しく学ぶ卒後教育「たちばなSIM」を開催している。

2021年度の「たちばなSIM」では、清優館に開設されたシミュレーションコモンズのお披露目することができた。参加者にとっては、懐かしい学び舎にて教員が出迎えられ、同じ学部の卒業生という共通の思い出に浸る場であり、職場の同僚や後輩を連れ立って学ぶ場にもなりつつある。明るい雰囲気、リラックスして研修を受けることができる環境を作り出しているのが、本プログラムの大きな特徴である。参加者のそれぞれ職場での看護実践での出来事、悩みや戸惑いを気兼ねなく、安心して語り合う機会となる分、個別的な経験知を積むことが可能になっている。

「たちばなSIM」の基本的なプログラム構成は、レクチャー→スキルトレーニング→シミュレーション→デブリーフィング（振り返り）となっており、参加者が日々の看護実践での疑問を解決しながら、自己の看護実践の振り返り（リフレクション）ができるようにデザインされている。卒業生の参加しやすい開催方法を模索しながら、定例開催をしていたが、シミュレーションの特性から、2020年度は、新

型コロナウイルスの感染拡大に伴い、対面での開催を見合わせることにした。その結果、卒業生がどんな状況下でも参加しやすい方法や継続した開催を可能にするために、開催方法や内容の検討を行った。

今年度のプログラム開催に際し、2020年度には、前年度の受講者の声を得て、ニーズにマッチした企画にするために、周産期関連のニーズ調査を事前に行った。そして、2021年度は、第1回（オンライン開催）「心不全患者と呼吸不全患者をマモル！」ならびに、第2回（対面開催）「お産を取り巻く急変対応—NCPR2020のポイントを確認して、新生児蘇生をできるようになろう！—」をテーマとして、計2回の開催とした。

2020年度 周産期領域のニーズ調査

I. 調査概要

2020年度に新型コロナウイルス感染症の拡大により、集合教育が困難だったことに加え、2021年度が新生児蘇生法のマニュアルの版が更新になることを鑑みて、2021年度開催に際して、助産コース選択の卒業生からのニーズが高い新生児蘇生法の講習の内容と運用方法を検討するために実施した。

II. 方法

1. 調査方法

2020年11月20日～12月18日に、無記名の Web 調査を実施。

2. 調査対象

2008年度（2009年3月卒業、卒業後12年）～2019年度（2020年3月卒業、卒業後1年）全88名のうち44名にメールにて依頼し、卒業生同士での共有拡散を依頼。

その結果、28名（卒業生の31.8%、直接依頼者の63.6%）から回答を得た。

Ⅲ. 結果

1. 対象背景（卒業年と勤務状況）

調査時点までに12期生まで卒業しているが、2013～2014年度の2年間以外においては、1名以上の回答を得ることができた。6割が病院で勤務する一方で、4～5年目以降に休職や育休中の他、クリニックや教育機関での勤務等の割合が増えてきていた。現在の職場環境については、約7割が産科病棟であり、小児科や分娩取り扱いのない婦人科、小児科といった関連領域の順に、割合が多かった。

2. 助産師としてのスキルアップ

1) アドバンス助産師取得状況（前提として、NCPR AまたはBコース要取得）

2016年（1期生：卒後2009年3月卒業）、2019年（3期生：卒後2011年3月卒業）、2020年（8期生：卒後2016年3月卒業）に各1名がアドバンス助産師に認定されており、いずれも病院で勤務されている。なお、分娩取り扱い病棟に、現在は勤務をしていない2名（卒後1～2年目）を除く26名（92.0%）がAコースを取得していた。

2) 新生児蘇生法の実地の経験項目

NCPRの安定化の流れである酸素投与やCPAPを

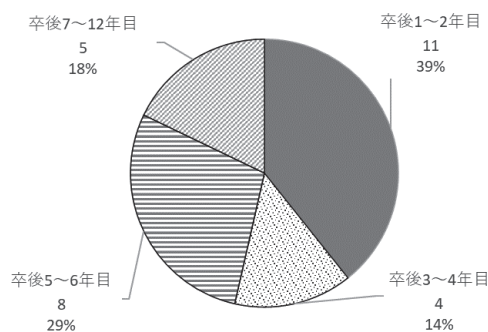


図 卒後年数

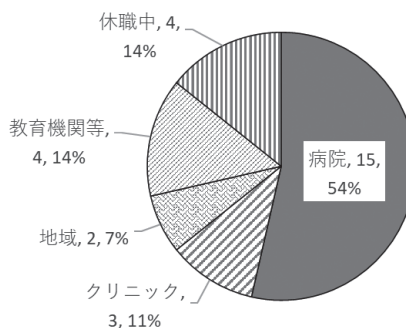


図 現在の就業場所

24名(85.7%)が実施していた。一方で、救命の流れについては、マスクバグが11名(45.8%)が最も実施されており、

次いで、挿管介助や薬剤投与の準備と続き、胸骨圧迫については低率であった。

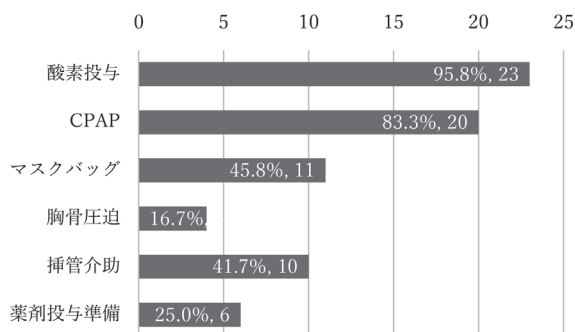


図 新生児蘇生での実地経験項目について（介助は医師等が実施する場合の支援）

3) 新生児蘇生法のトレーニング環境

勤務施設にて、SIMトレーニング環境が整っている場合が多く、院外の講習会を併用している場合もあった。また、クリニックや地域、教育機関に所属する場合、院外講習会を活用し、クオリティマネジメントのために配置しているリージョントレーニング施設の活用はされていなかった。

3. 更新の講習への要望

「SIM演習メイン」の他、「オンライン講義のみ」や「講義とSIM演習」が同程度の要望であった。特に、SIM演習を含めた講習を希望したのは、勤務施設でのフォローがない場合や臨床でマスクバックによるNCPRを実施していないことが背景として考えられた。また、卒後3～4年目以下の他、卒後5年目以上でも、臨床を離れている場合には、SIM演習の要望が上げられる傾向にあった。

IV. 考察：今後のたちばなSIMでの新生児蘇生法の講習の方向性

日本周産期・新生児医学会によるNCPRのAコース認定講習よりも、スキルアップ講習を企画する。オンライン講義のみや講義とSIM演習の両方の要望が高いことから、状況によりリモート開催も一案であること、SIM演習を希望する方には、学会認定のスキルアップ講習として受講としても活用できると、Aコースの認定更新にも有効と推察された。卒後5年目以下、離職（復職希望者）、勤務施設にてNCPRのスキルアップを実施していない場合もあることもあるため、引き続きSIM演習の継続の必要性も再確認した。たちばなSIMでは、所属施設の現状、看護職として期待されている役割、自身の技能にあわせたSIM演習により、確実なスキルアップにつなげる機会にする企画が有効であると示唆された。

2021年度 第1回 たちばなSIM

開催概要

テーマ：「心不全患者と呼吸不全患者をマモル！」

日時：2021年6月13日（日）13：00～17：00

開催方法：リモート開催

発信場所：清優館 シミュレーションコモンズ

担当者：野島、マルティネス、時岡、平岡、深谷、
萬代（職位別、五十音順）

調整者：清水、小村（事務局）

参加者：11名（1年目6名、2年目4名、5年目1名）

研修の目的

1. 心不全や呼吸不全患者特有のアセスメントを
えることができる
2. 参加者との交流を通して、「明日からまた仕事を
頑張ろう」ということができる

表1 第1回たちばなSIM スケジュール

時間	内容
13：00～	挨拶・オリエンテーション
13：10～ 13：40	アイスブレイク（チームビルディング） 自己紹介（うちの病院自慢） シミュレーションの進め方 説明
10：30～ 11：20	心不全患者事例 事例紹介 動画視聴 コンコーダンスレクチャー 動画視聴 ディスカッション Sharing
15：00～	呼吸不全患者事例 事例紹介 動画視聴 ディスカッション Sharing
16：10～	まとめ アンケート記入

1. たちばなSIMでは、
興味を引く内容でしたか？
2. たちばなSIMは、
日々の仕事の役に立ちそうな内容でしたか？
3. たちばなSIMを受講して、
「やればできそうだ」と思えましたか？

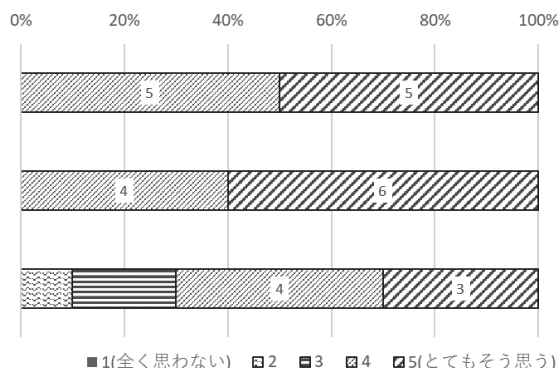
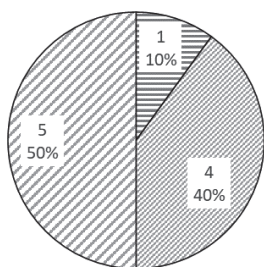


図1 第1回たちばなSIM 受講内容の関心度・役立ち度・習熟度



■1(満足度が低い) ■2 ■3 ■4 ■5(満足度が高い)

図2 第1回たちばなSIM 受講者の満足度

研修の目標

1. 2つの症例患者に対して状態把握に必要な観察を実施することができる
2. 2つの症例患者に対して必要な観察・アセスメントについて考えることができる
3. チームで協力して、臨床推論プロセスについて考えることができる
4. 得られた学びを自身の仕事に活用できると感じることができる
5. 楽しく学ぶことができる

評価

1) アンケート結果

10名の受講生全員から、受講後のアンケートの回答があった。

(1) 受講内容の関心度・役立ち度・習熟度(図1)

「1. たちばなSIMでは、興味を引く内容でしたか?」「2. たちばなSIMは、日々の仕事の役に立ちそうな内容でしたか?」については、全ての受講者が肯定的に評価していた。一方で、「3. たちばなSIMを受講して、「やればできそうだ」と思えましたか?」についても、7名(70%)の受講者が肯定的に評価していた。

(2) 受講者満足度(図2)

「4. たちばなSIMを受講した満足度は?」については、9名(90%)の受講者が肯定的に評価していた。

2) 参加者の感想

今後たちばなSIMで実施してほしいテーマがございましたら、お聞かせください。

(1) リモート開催への感想

・オンラインでの開催が初めてで難しい点も

あったと思いますが開催していただきありがとうございました。

- ・初めてのリモートで新鮮でしたが、楽しく受講できました。

(2) 参加の感想

- ・話しやすい雰囲気の中で楽しく参加できました！
- ・急変時の対応の仕方について学べてよかった。疾患の復習もしようと思いました。
- ・色々な病棟で働いている人と話せて勉強になりました。
- ・知識が全然無くて、先輩たちのアセスメント

や対応力がすごいと感じた。自分も知識も技術も患者さんへの気遣いも日々学ぶ姿勢を大事にしたいと改めて感じた。

- ・自分では気付くことができない点に気付くことができ、良い学びの機会となった。生活背景の情報収集や一般状態の観察が不足している事を認識した。今後に活かしていきたいと思う。

(3) テーマの要望

- ・急変対応など
- ・心電図、急変時対応



写真1 第1回たちばなSIM @シミュレーションcommons (リモート開催)

2021年度 第2回 たちばなSIM

開催概要

テーマ：「お産を取り巻く急変対応 NCPR2020のポイントを確認して、新生児蘇生をできるようにしよう！」

日時：2021年7月18日（日）13:00～16:30

場所：清優館 シミュレーションコモンズ

担当者：清水、川野、前田、松葉（職位別、五十音順）

調整者：野島、小村（事務局）

参加者：6名（1年目1名、4年目2名、6年目1名、8年目2名）

研修の目的

1. チェックシートを用いて自らの手技やシナリオ演習を再確認・振り返りを行い復習することができる。
2. 参加者との交流を通して、「明日から、また仕事を頑張ろう」「くり返しトレーニングを継続して、NCPRの質を維持しよう」と思うことができる。

表2 第2回たちばなSIM スケジュール

時間	内容
13:00～	挨拶・オリエンテーション アイスブレイク（チームビルディング） 自己紹介（うちの病院自慢） シミュレーションの進め方 説明
13:15～ 14:00	手技確認（講義PP使用・演習形式）
14:00～ 15:30	シナリオ実習：40分×シナリオ2 （マスクバックのみ・マスクバックと胸骨圧迫、+α:アドレナリン投与時期を考慮）
15:30～ 16:00	低出生体重児の場合のNCPR
16:00～ 16:30	まとめ アンケート記入

研修の目標

1. NCPR2020年度版の更新内容を理解できる。
2. NCPRの判断・行動について、不得意箇所の確認と強化をすることができる。
3. チームで協力して、臨床推論プロセスについて、考えることができる。
4. 得られた学びを自身の仕事に活用できると感じることができる。
5. 楽しく学ぶことができる。

評価

1) アンケート結果

6名の受講生全員から、受講後のアンケートの回答があった。

（1）受講内容の関心度・役立ち度・習熟度（図3）
「1. たちばなSIMでは、興味を引く内容でしたか？」については、全ての受講生が肯定的に評価していた。「2. たちばなSIMは、日々の仕事の役に立ちそうな内容でしたか？」と「3. たちばなSIMを受講して、「やればできそうだ」と思えましたか？」については、受講生全員が「とてもそう思う」を選択していた。

（2）受講者の満足度（図4）

「4. たちばなSIMに受講した満足度は？」については、全受講生が「満足度が高い」と評価していた。

2) 参加者の感想

今後たちばなSIMで実施してほしいテーマがございましたら、お聞かせください。

（1）対面シミュレーションの感想

・シミュレーションをさせてもらえたことで、少し自信ができました。また、先輩方の手技を見ることもとても勉強になりました。病

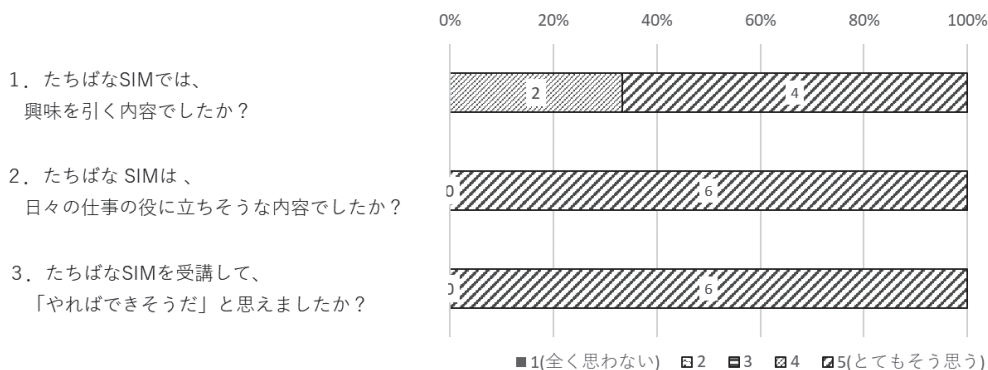


図3 第2回たちばなSIM 受講内容の関心度・役立ち度・習熟度

院に帰ってからも練習がんばります。

(2) 参加の感想

- ・質問や発言もしやすく、たくさん学びを得ることができました。学び続けることって、大切だと改めて思いました。貴重な機会をありがとうございました。
- ・貴重な機会をいただき、とても勉強になりました。興味のある内容で受講できてよかったです。ありがとうございました。

(3) テーマの要望

- ・引き続きNCPRのシミュレーションや産後大出血などのシミュレーションがあると嬉しいです。
- ・NCPRと母体救急は、定期的 to 実施してほしいです。ありがとうございました。
- ・ICLS、BCS、母体の急変

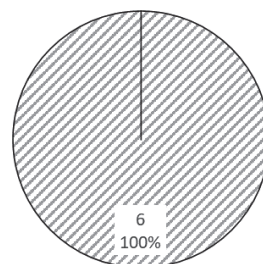


図4 第2回たちばなSIM 受講者の満足度



写真2 第2回たちばなSIM @シミュレーションcommons (対面開催)

2022年度開催に向けての課題

たちばなSIMの効果は、参加者の感想より、新卒者のリアリティーショックの軽減やスキルアップの他に、新卒者と少し経験を積んだ卒業生らと一緒に学ぶ機会を得て、ロールモデルが得られる様子も伺えた。本学の卒業生も増えてきており、今後、CNS等の将来のキャリアの検討や教育に関する情報収集の場にもなり得ると考えられた。また、たちばなSIMは、オープンキャンパスとの同時開催としており、今年度も多くの方にお立ち寄りいただいた。よって、入学前の生徒から、ジェネラリストのスキルアップ、そして、キャリアや教育に関する方法収集の場といった幅広い用途に活用される存在となるべく企画運営を引き続き検討していく。

新生児蘇生法のスキルアップコースとしての参加の準備も並行した。しかしながら、今年度は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う特例措置にて、対面講習に代わるオンライン学習が認められていたため、受講にはつながらなかった。昨年度より、助産選択の学生には、学部4回生のうちにNCPRのAコース取得する機会の提供を開始しているため、継続して経過を見るとともに、助産師選択をしなかった卒業生へのプロモーションも図っていく。

新型コロナウイルス感染拡大に伴う開催方法の検討は、継続課題である。受講者が、医療者という特性から、情勢によっては、急な欠席も余儀なくされる状況が想定されている。対面開催であることの感染のリスクも考慮した感染予防策を徹底した運用を、引き続き強化していく。

2020～2021年度の経験を糧に

新型コロナウイルスの感染拡大により、あたり前のことと思われていた対面開催が困難になるという窮地を経験したことで、「たちばなSIM」の意義に

ついて、改めて考える機会となった。その過程では、対面でのシミュレーションの必要性を再確認するとともに、リモート下でもできる準備やその新たな可能性も模索した。また、コロナ禍の状況によっては、受講者の参加が急に難しくなることも想定し、参加手続きについて非常に柔軟な対応を事務局にもしていただいた。その結果、皆さんからも多大なるご協力も得て、新型コロナウイルスの影響も考慮しながらも、「たちばなSIM」開催を再開することができた。

知識や技術の再確認ができ、自分の看護実践を仲間とともに振り返り、看護の楽しさを再確認できる場が「たちばなSIM」である。加えて、「変化を楽しむ人であれ」という本学のタグライン通り、コロナ禍による変化に抗わず、運用を工夫し適応することで、「たちばなSIM」を再開できた。京都橘大学で学修した同窓の看護職として、職場の仲間も巻き込んで、これからは病院やコミュニティー問わず人々の支えになり、どんな時でも、多職種連携により看護職の役割を全うできる専門職者としてのキャリアアップするために、ともに自己研鑽して参りましょう。清優館のシミュレーションコモンズにて、2022年度もお待ちしております！

看護学部 准教授 清水 彩



2021 京都橘大学 看護教育研修センター

たちばなSIM.

大学卒業後も看護学を学び続け、保健医療の現場で活躍する卒業生を応援する事業です。
リラックスし、安心できる学びの空間で、働きながら身に付けた知識を改めて学びほぐす場を提供します。
シミュレーションを取り入れながら楽しく学ぶ「たちばなSIM.」、みなさんの参加をお待ちしています!!

開催場所 京都橘大学清優館 演習室 **参加費** 卒業生 ¥3,000/回 その他 ¥4,000/回

第1回オンライン開催は無料! (教材費を含む)

対象者 本学部卒業生

卒業生ではない方も一緒に参加OK!!

定員 各30名(先着順)

担当教員 野島 敬祐 マルティネス 真喜子 清水 彩 他

program

第1回 心不全患者と呼吸不全患者をマモル!!

2事例のシミュレーション演習を通して、「知識」と「技術」を磨くトレーニング!!

<オンライン開催>

2021年6月13日(日) 13:00~17:00

第2回 お産を取り巻く急変対応

NCPR2020のポイントを確認して、新生児蘇生をできるようになる!!

(認定証の更新に必要なNCPRスキルアップ講習としての参加も

先着10名可能ですので、参加申し込み時にご選択ください)

<対面開催>

2021年7月18日(日) 13:00~16:30

(オンライン開催に変更になる場合があります。その際には、NCPRスキルアップ講習の申し込みを中止します)

お申込み方法

専用入力フォームからの申し込み → 右のQRコードをご利用ください。

<https://>

京都橘大学看護学部のFacebookからの申し込みもOK!!

お申込み・お問い合わせ先

京都橘大学 看護教育研修センター

〒607-8175 京都市山科区大宅山田町34

E-mail 3academic@tachibana-u.ac.jp

※9:00~17:00(土・日・祝日を除く)



変化を楽しむ人であれ

京都橘大学

■2021年度 看護倫理研修

京都橘大学看護教育研修センターでは、2018年度より病院や施設で働く看護職者を対象とした「看護倫理研修」を開催している。2020年度は、残念ながらCOVID-19の影響で研修会が開催できなかったが、今年度は、オンライン研修会（Zoom）という新たな試みでの開催となった。テーマは、「臨床で直面する倫理的課題への向き合い方—事例を通して考えよう—」であり、日々の看護実践の中に潜む倫理的問題について、参加者同士のディスカッションを通して学べる内容とした。2019年度までは午前・午後の長時間の研修会であったが、今年度はオンライン開催という状況を踏まえ、時間を短縮して実施した。研修会のスケジュールを表1に示す。参加者は12名（うち1名途中退席）であり、年齢や看護師経験年数は多様であった（表2）

参加者の研修会の参加動機は、「臨床で看護をす

るなかで知識をもって倫理的問題について考えたいと思った」、「倫理的な観点から看護を深めたいと思ったから」、「倫理とは何かがわからなくなり原点に立ち返りたいと思ったから」等であり、日々の看護実践における倫理的な課題への向き合い方を学びたいという思いが感じられた。

前半の講義では、参加者は、看護倫理を学ぶ意義や倫理における歴史的経緯、医療における倫理原則、看護者の倫理綱領などについて、用語の意味も確認しながら基本的な知識を学んだ。後半は、参加者自身が経験した事例もとに、講義内容を参考にしながらグループディスカッションを行った。1グループを4名とし、3グループに分かれて実施した。参加者には、通信環境が悪くない限りは顔を出してもらい、画面越しではあるものの参加者同士、顔を見ながらのディスカッションとした。最初は、オンライン上

表1 研修会スケジュール

時間	内容	担当
13:30～13:35	オリエンテーション	中橋
13:35～14:55	【講義】 ・倫理に関する基本的知識、思考プロセスについて	梶谷
14:55～15:05	休憩	
15:05～15:10	事例検討のすすめ方、グループワークと発表の仕方	中橋
15:10～16:10	【グループディスカッション】 ・自己紹介、役割分担（司会・発表者） ・事例について分析シートを用いて整理しながら、倫理的な看護実践について考える。	梶谷 ・ 中橋
16:10～16:20	休憩	
16:20～16:50	発表・意見交換	
16:50～16:55	ファシリテーターからのコメント	梶谷
16:55～17:00	研修のまとめ アンケート	中橋

表2 参加者の概要（N=10）

年齢	20代：4名、30代：3名、40代：3名
看護職経験年数	3～5年：2名、6～10年：4名、11～15年：2名、16～20年：1名、21年以上：1名
職場での役職等	スタッフ：4名、教員：3名、副主任・主任：3名

でのやり取りに戸惑っている様子がうかがえたが、時間とともに活発な意見交換が見られるようになった。ファシリテーターは、3つのグループをラウンドしながらグループワークが円滑に進むためのサポートを行った。

グループワークでは、3グループともが臨床現場で遭遇したリアルな事例を取り上げ、4ステップモデルを用いて事例を整理し、看護実践のあり方について討議した。取り上げていた事例は、小児科病棟における子供の意思の尊重、患者の意思決定支援等であり、実際の状況やその場面で当事者が考えたこと等を確認・共有しながら、具体的に話し合うことができていた。意見交換を通し、当事者自身も自己の思考の振り返りの機会となっていた。また、他の参加者からのさまざまな意見をきくことで、「こういった見方もあるのか」と言った多様な視点でのものの見方への気づき、「これでよかったのかと悩んでいたけど、この時はこれが最善だったのだ」といった自己の看護実践の確認ができており、「次に倫理的課題に出会った時は、こんな風に考えてみよう」「考えることが大切なんだ」といった今後に役立つ看護の示唆を得ることができていた。このように、グループディスカッションでは、参加者同士が、日々の看護においての悩みや迷いを自由に発言・共有し、異なる立場の看護専門職からの意見に耳を傾け、自身の看護実践について考えることができていた。

参加者は、受講後に「自分のもやもやしたことをこれまであまり共有したことがなかったと気が付いたので、これからは自分の感じたことを他の人と共有していきたい」「これからもっと患者さんや家族のモヤとする面のカンファレンスを増やしていきたい。多職種も交えたカンファレンスをしていきたい」等、日常で出合う倫理的課題に対して、他者と共有すること、さまざまな専門職と共に考えていく

ことの重要性を実感していた。また、「他の方の事例をお聞きする中で、自分と同じように悩んでいる方がいるということを知ることができてとても良かったです。倫理研修に参加するにあたって、自分が働いてきた中でどんな倫理的な問題があったのか考えた時に、実は日々の看護の中にはたくさんの倫理的な問題があることに気が付きました。日々色々な視点から考えていくことを忘れないで行こうと思います」「具体的な事例を踏まえながらご講義していただくことで、大変わかりやすく理解が深まりました。様々な臨床現場で働く看護師との意見交換は大変貴重で学びが多くありました。グループワークの時間がもっと欲しいと思うほど有意義な意見交換ができたと思います」と、参加者にとって多くの学びを得られた研修会であったと考える。本研修会は、参加者の所属施設でない場で、さまざまな臨床経験年数、看護専門職の人々と自由かつ率直に語り合えることが特徴である。今年度は、オンライン研修という新たな試みでの開催となり、通信状況の関係で途中通信が途絶える参加者もいた。しかし、「子供が居たり、仕事が終わらずに仕事途中からの参加にはなりましたが、オンラインだからこそこんな風に参加できたのだと思います。画面が出なかったり、ミュートが解除できなかったり大変バタバタしましたが、全く知らない方とカンファレンスできて良かったです」といった意見にもあるように、参加のしやすさといったメリットもあったと考える。今後、多くの参加者が参加しやすい方法を含め、臨床の看護職の学びにつながるようなプログラムを企画していきたい。

看護学部 准教授 中橋 苗代

京都橘大学看護教育研修センター 年報2021

発 行：2022年3月

発行・編集：京都橘大学看護教育研修センター

〒607-8175 京都市山科区大宅山田町34

Tel & FAX：075-574-4133

E-mail：cpdn@tachibana-u.ac.jp

URL：http://www.tachibana-u.ac.jp/about/nursing/